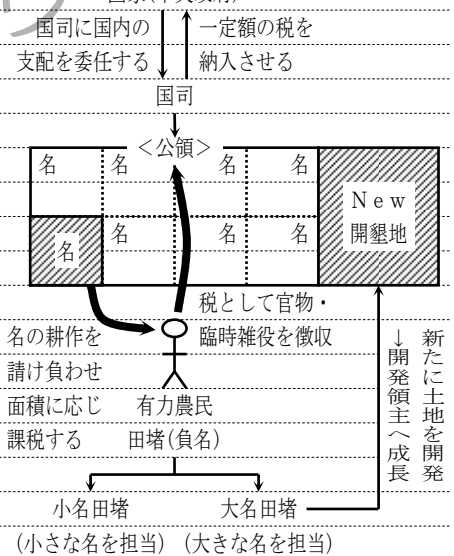


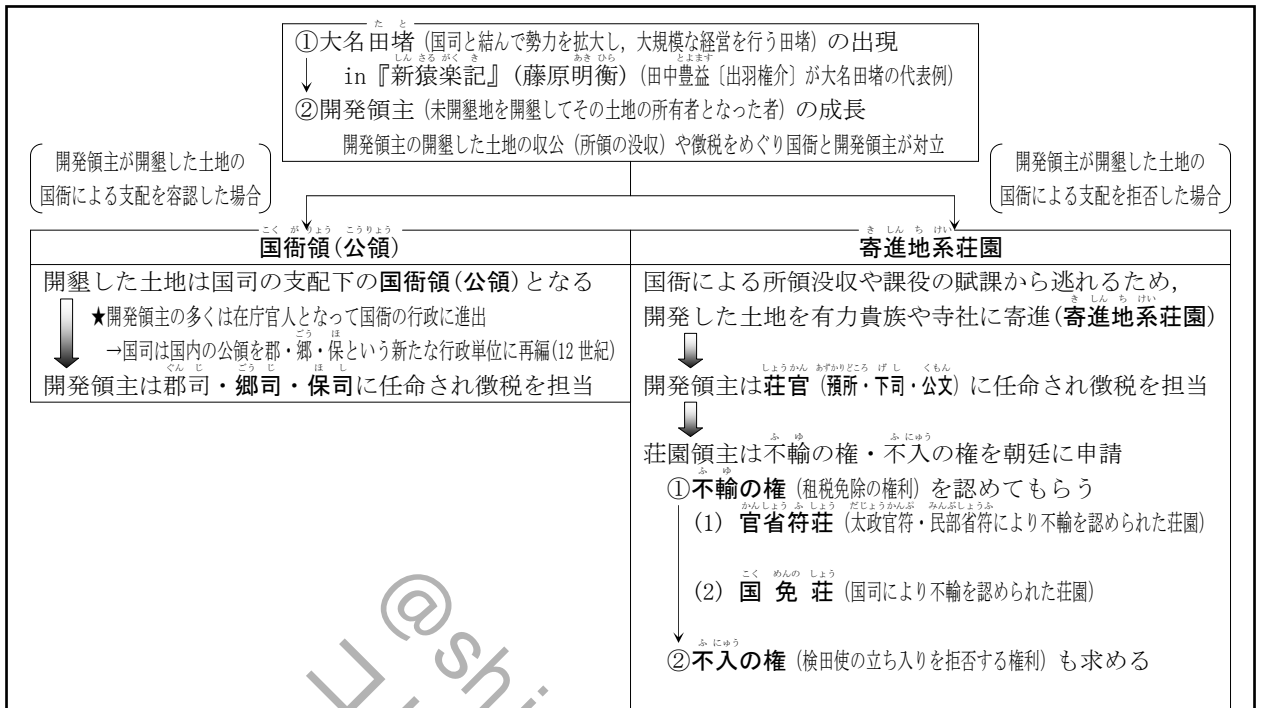
10 世紀=王朝国家(課税単位=土地税)

- ① 負名体制（土地税に基づく徴収制度） ★為政者＝藤原忠平（朱雀天皇時）
- ↓
- (1) 口分田などの公領を収公（班田収授を廃止）
- (2) 公領を名（名田）という課税単位に編成する
- (3) 田堵（負名）（有力農民）に一定期間、田地の耕作を請け負わせ、名（名田）の面積に応じて課税する
→官物（租・調・庸の系譜）・臨時雑役（雑徭の系譜）を徴収
- ② 地方政治の転換（律令体制の崩壊に伴い、国司の権限を強化）
- 国司に一定額の税の納入を請け負わせ、その代わりに一国内の統治を委ねる
- (1) 国司は中央政府に対する徴税請負人の性格を強める
→以降、地方政治の運営における国衙（国府）（国司の政庁）の役割が增大
★今まで地方政治を担っていた郡衙（郡家）（郡司の政庁）の役割は衰退
- (2) 国司は租税の課税率を決める権利を認められ、一定額の税を納めればよいため蓄財が可能になる（国司の地位の利権化）→成功・重任の盛行
- ―― [国司の地位の利権化] ――
- ① 成功（一定の財物を朝廷に納めて、国司などの官職に任命される）
- ② 重任（一定の財物を朝廷に納めて、国司などの官職に再任される）
- ③ 受領（現地に赴任する最上級の国司（守）＝貪欲な者が多かった）
ex. 藤原元命（尾張守）『尾張国郡司百姓等解（文）』（988）
31 カ条にわたる悪政を郡司・百姓に訴えられる
藤原陳忠（信濃守）「受領は倒れるところに土をつかめ」
貪欲な受領の例として知られる in『今昔物語集』
- ↓
- ④ 遙任（現地に赴任しない国司一代わりにより目代を派遣し代行させる）
目代（国務の代行者）が現地の留守所（国衙）の国務を担当し、
在庁官人（国衙の実務にあたる現地の地方役人の総称）を指揮する

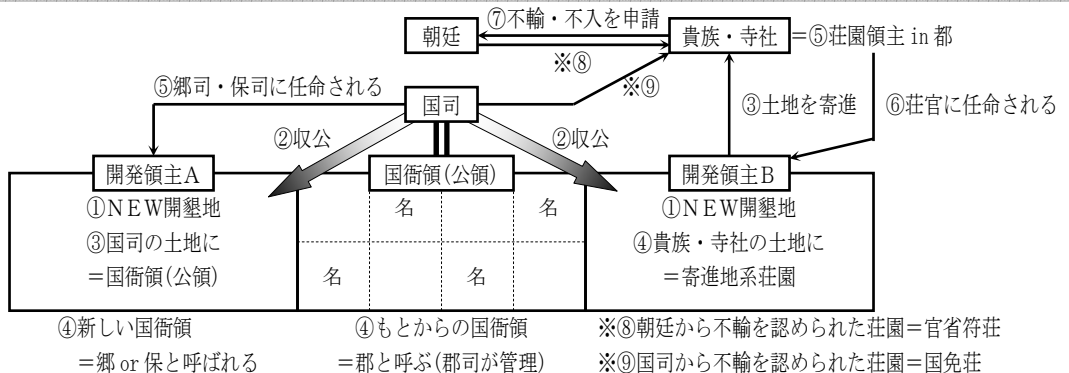
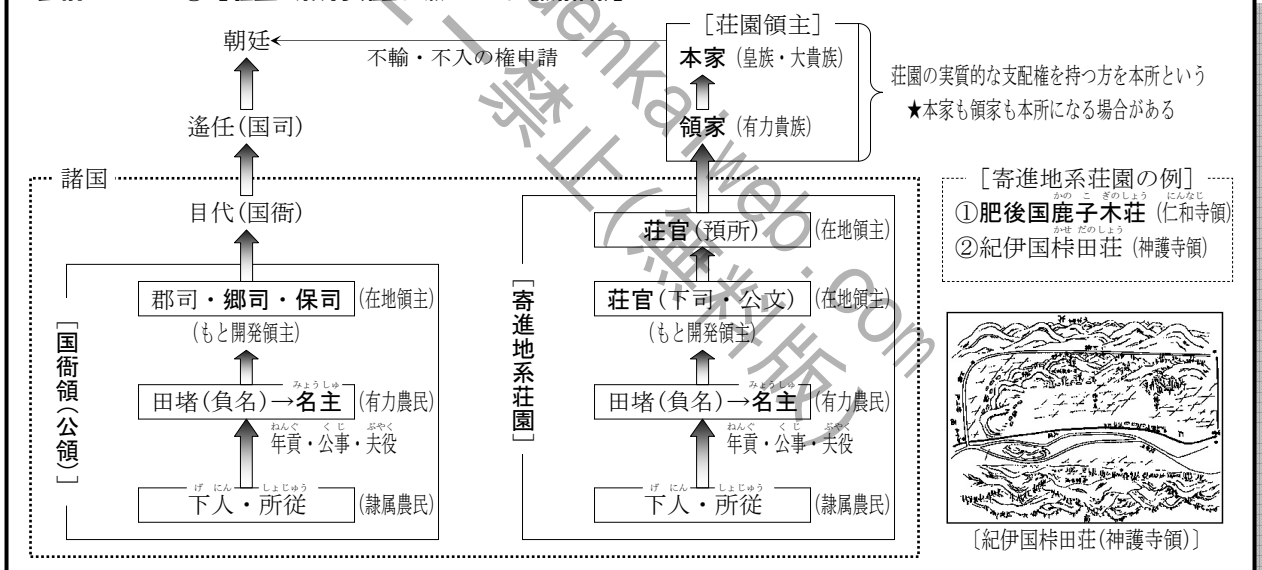
図解NOTE②「地方制度の転換」

- 国家(中央政府)





図解NOTE③ [荘園公領制(荘園と公領からなる土地領有体制)]



10 世紀=王朝国家(課税単位= 税)

- (1) 日分田などの公領を収公（班田収授を廃止）

- (2) 公領を () という課税単位に編成する

- (3) () (有力農民) に 一定期間、田地の耕作を
請け負わせ、名(名田)の面積に応じて課税する
→ (租・調・庸の系譜) ・ (雑徭の系譜) を徴収

- ②地方政治の転換（律令体制の崩壊に伴い、国司の権限を強化）

国司に一定額の税の納入を請け負わせ、その代わりに一国内の統治を委ねる

- (1) 国司は中央政府に対する徴税請負人的な性格を強める

→以降、地方政治の運営における () () の政庁) の役割が増大

- ★今まで地方政治を担っていた () () の政庁) の役割は衰退

- (2) 国司は租税の課税率を決める権利を認められ、一定額の税を納めれば

よいため蓄財が可能になる（国司の地位の利権化）→ ・ の盛行

「国司の地位の利権化」

- ① (一定の財物を朝廷に納めて、国司などの官職に任命される)

- ② (一定の財物を朝廷に納めて、国司などの官職に再任される)

- ③ (現地に赴任する最上級の国司(守)=貪欲な者が多かった)

ex. (守)『 (年)

カ条にわたる悪政を郡司・百姓に訴えられる

(守)「 は倒るるところに土をつかめ」

食欲な受領の例として知られる in 『 』

- ④ (現地に赴任しない国司→代わりに を派遣し代行させる)

(国務の代行者) が現地の (国衙) の国務を担当し、

(国衛の実務にあたる現地の地方役人の総称)を指揮する

- ①浮浪・逃亡・偽籙の激化と有力農民と院宮王臣家の結びつき

＝戸籍・計帳の制度が崩壊し、戸籍・計帳に基づいて、

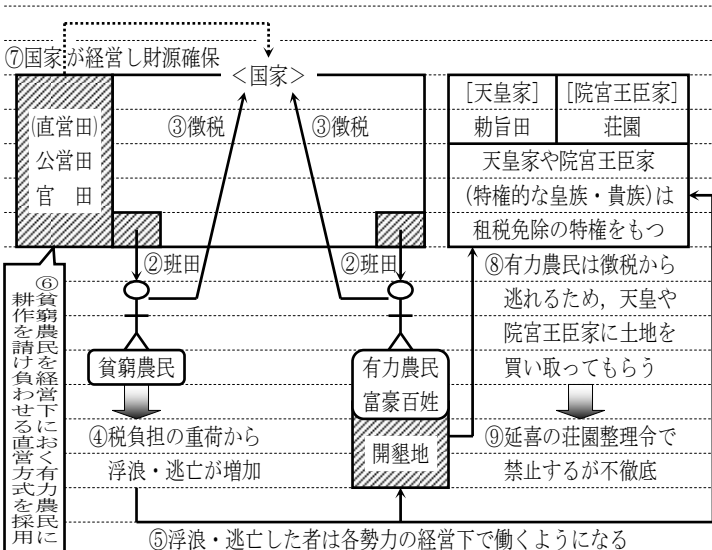
班田収授を実施したり、徴税をするのはもはや不可能

②成年男子を中心に庸・調などを賦課する人頭税から(～9世紀)

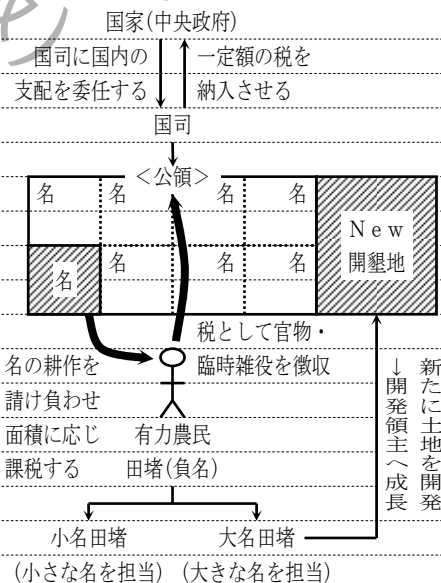
土地の面積に応じて官物などを賦課する土地税へ転換(10世紀)

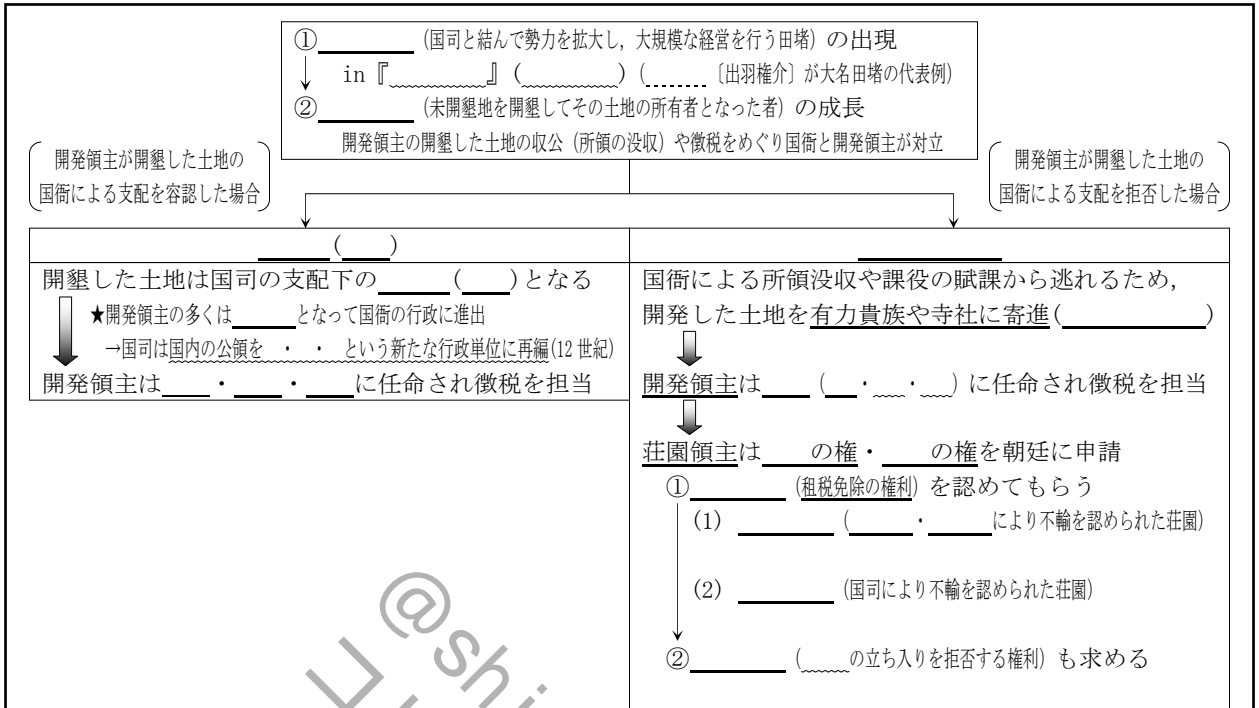
・図解NOTE① [律令制度の崩壊]

- ①戸籍・計帳に基づいて口分田を班給し(班田収授)、正丁を中心に調・庸などを徴収



・図解NOTE②「地方制度の転換」





図解NOTE③ [_____ (荘園と公領からなる土地領有体制)]

